

遅咲きの横綱「稀勢の里」誕生、六度目の正直だそうです。・・・今日は以下の文をまず読んで以下の問いを考えよう

中日春秋

いまひとつ人気の出ない上方の噺家が、昭和の大名・古今亭志ん生の伝記を読んで、「これだ!」という至言を見つけた。名人の次男・志ん朝さんは早々に売れっ子になったが、長男の馬生さんはなかなか人気が出なかった。馬生さんを励まして、志ん生師匠曰く「いいか。お前はやかんが大きいんだ。他の連中はやかんが小さいから沸騰するのも早い。そのかわり冷めるのも早い。その点お前はやかんが大きいから、なかなか沸騰しないんだ。そのかわり一度沸騰したらなかなか冷めない」▼「おれもこれといっしょだ。おれはやかんが大きいんだ」と喜ぶ売れない噺家に、弟子たちがちゃちゃを入れる。「兄さん、とりあえずガスはつけなはれや」「やかに穴あいてまへんか」。中島もさんの傑作短編『寝ずの番』の一幕だ▼このやかんも相当なものである。稀勢の里関は、新十両、新入幕ともに貴乃花に次ぐ史上二位の若さだった。水は早々に湯気を立て始めたのに、いつまでたっても沸騰はしない。ここ一番の勝負に弱い。「精神力に穴あいてまへんか」と言われ続けた▼しかし、ようやくその時が来たようだ。新入幕から七十三場所という史上二番目の遅さで初優勝を飾って、横綱昇進を決めた▼じつくりと沸いた特大のやかんは、その分冷めぬ。日本中を沸き立たせ続ける、大横綱になっくれるだろう。

2017.1.24

中日新聞 1/24

- 【1】 古今亭志ん生はなかなか芽のでない長男にどんな励ましをしたか
- 【2】 まわりの弟弟子はどんなチャチャを入れたか
- 【3】 稀勢の里関のやかんは「大きい」か「小さい」か、その理由と共に答えよ。

初土俵から横綱までの所要場所数

1	三重ノ海	97
2	隆の里	91
3	稀勢の里※	89
4	琴桜	85
5	北の富士	78
6	鶴竜※	74
7	日馬富士※	70
8	千代の富士	66
8	玉の海	66
10	若乃花	62

昭和以降。※は現役、若乃花は3代目若乃花

新入幕から横綱までの所要場所数

1	稀勢の里※	73
2	琴桜	60
2	三重ノ海	60
4	隆の里	50
5	日馬富士※	47
5	若乃花	47
7	武蔵丸	46
8	旭富士	45
9	鶴竜※	44
10	北の富士	37

昭和以降。※は現役、若乃花は3代目若乃花

- 【4】 あなたののやかんは「大きい」か「小さい」か、その理由と共に答えよ。



～ やかんを沸かすためには、まず「やる気」の火をつけようね ～